

第2回4/21 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング

ネットワークの基礎(2)と作図ソフト試用

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

1

○ネットワークの基礎1(復習) -1707 通信プロトコル(パケット)-

- ・ (1)プロトコル
 - コンピュータ同士がデータ通信を行うために定められた規約のことを「プロトコル」と言います。プロトコルでは情報のフォーマットや情報通信をするための手順、誤り検出の方法など、情報を正確に送り先に送るためのさまざまなデータ通信のルールが決まっています。
- ・ (2)パケット
 - 「パケット」とは「小包」という意味です。コンピュータ同士の通信では、通信するデータを一定の大きさに切り分け、それに送り先の住所(アドレス)やデータの形態、データの大きさ、送り主などの情報を書き込んだヘッダをつけたものをパケットと言います。
- ・ (3)TCP/IP
 - TCP/IPは、インターネットの標準プロトコルとして最も普及しているプロトコルです。狭義にはTCPとIPと言う二つのプロトコルを指しますが、実際にはアプリケーションレベルまでの多くのプロトコルを含んでおり、それらを総称してTCP/IPと言うことが多いようです。最近では、LANをはじめ、幅広く使われています。
- ・ (4)アプリケーション層とトランスポート層
 - アプリケーション層は、データの受発信を行なうための様々なプロトコルが、その一つのトランスポート層には、TCPとUDPと言うプロトコルが用意されています。TCPは、確実にデータが送られているかを確認しながら通信を行う機能を、またUDPは、手順を簡略化し、高速に通信を行うためのプロトコルです。
- ・ (5)インターネット層とネットワークインタフェース層
 - インターネット層では受け取ったパケットに、送り主や送り先の住所であるIPアドレスなどを書き込んだIPヘッダを付け直し、送り先への最短路線も決めます。ネットワークインタフェース層では、物理的な接続や、データを送るための制御手順などを規定します。

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

2

○ネットワークの基礎2(復習) - 1709 IPアドレスの意味とルーティングのはたらき -

- ・ (1)IPアドレスとは
 - IPアドレスとは、インターネットに接続されているコンピュータの住所にあたるものです。インターネット上に数千万台のコンピュータが接続されていますが、それらの一台一台に重複しないIPアドレスが割り当てられています。
- ・ (2)IPアドレスの構造と割り当て
 - IPアドレスは、32ビットの2進数で、0から255までの4つの10進数を、ピリオドで区切って使います。理論的に42億9496万7296個のIPアドレスを割り振ることができますが、実際にはもっと少ない数になってしまいます。
- ・ (3)ルータの役割
 - ルータは、ネットワークとネットワークを接続する装置です。TCP/IPネットワーク(インターネットなど)では、パケットのIPアドレスを見てデータの伝送ルートを決め、該当するネットワークにパケットを転送します。
- ・ 「情報機器と情報社会のしくみ」を参照
 - <http://kyoiku-gakka.u-sacred-heart.ac.jp/youhou-kiki/sozai/1000.html>

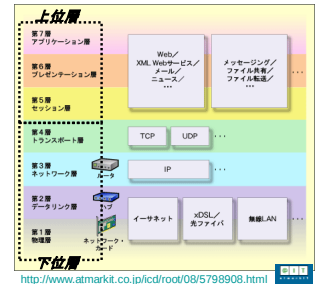
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

3

OSI参照モデルとカプセル化(※1.4-1.7)

- ・ 通信の機能を7つの階層に分けたモデル
 - 下位ほど物理的、上位ほどソフト的
- ・ 通信プロセス;
 - 送信する際には最上位のアプリケーション層のデータを次々と下位の層に渡して、カプセル化していく。受け取る際には逆に非カプセル化。



2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

4

OSI7階層の役割・上位層(※1.7)

- ・ 各層でそれぞれ決められた役割がある (@IT 詳説 TCP/IP プロトコル +α)
- ・ 第7層アプリケーション層
 - アプリケーション間でのデータのやり取りを規定する。各アプリケーションに特化したプロトコルが存在する。
 - 例えば、電子メールの送受信用のプロトコル
- ・ 第6層プレゼンテーション層
 - データの表現方法を規定する。
 - 例えば、圧縮や暗号化など
- ・ 第5層セッション層
 - セッション(通信の開始や終了など)の手順を規定する。
 - 例えば、複数の通信を行う際の交通整理など

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

5

OSI7階層の役割・下位層(※1.7)

- ・ 第4層トランスポート層
 - 各コンピュータ上で実行されている、2つのアプリケーション間での通信方法を規定する。信頼性のある通信を提供する。上位層のアプリケーションを識別するためにポート番号が割り振られている。
- ・ 第3層ネットワーク層
 - ネットワーク上の2つのコンピュータ間での通信方法を規定する。論理アドレスを使用して伝送経路の選択をする。
- ・ 第2層データリンク層
 - 1つのネットワーク媒体に接続された複数のコンピュータの間でデータを伝送する方法を規定する。物理アドレスを使用してデータフレームを転送。
- ・ 第1層物理層
 - コンピュータのデータとネットワーク媒体上を流れる電気的な信号を変換する方法を規定する。またコネクタやケーブルの形状など。

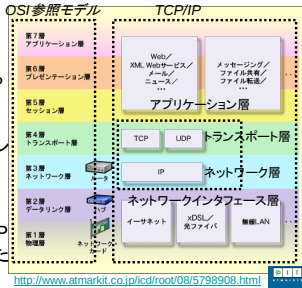
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

6

TCP/IPとOSI参照モデル

- TCP/IP は ARPAnet (アメリカの国防総省の関連組織DARPAが設計) から発展したプロトコル
- Unixで一般的に利用(カルフォルニア大学バークレイ校により1981年頃より) できるようになった。
- OSI参照モデルは仕様ではなく指針であり、TCP/IPはこれを参照して作られた実際のプロトコル



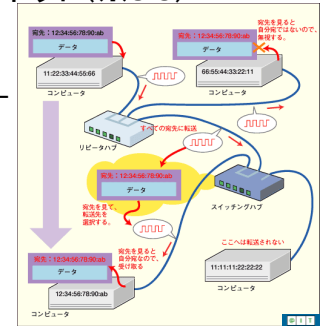
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

7

イーサネット(※3.5)

- イーサネットとは、TCP/IPのネットワークインタフェース層(L2)での具体的な規格
 - Xerox社とDEC社が考案
- IEEE 802.3委員会によって標準化
- アクセス制御にはCSMA/CDを採用
- パケット方式



2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

8

イーサネットの種類(※3.5)

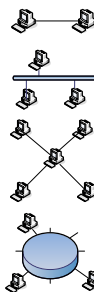
- イーサネットには複数の規格がある
 - ケーブルの種類、通信速度、トポロジーなどが違う
- 代表的なイーサネット
 - 10Base5、10Base2
 - バス型、同軸、10Mbps
 - 100BaseTX
 - スター型、UTP、100Mbps
 - ファーストイーサと呼ばれる
 - 100BaseFX
 - Point to Point型、光ファイバ、100Mbps

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

9

ネットワークポロジの種類(※3.2)



- ポイントツーポイント型
 - ノードとノードを直接接続
- バス型
 - 一本のバスに、ノードをぶら下げる
- スター型
 - 一つのノードを中心にスター型に接続
- リング型
 - リング(輪)状のネットワークにノードを接続

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

10

IPアドレス、MACアドレス(※6.1.3.3)

- いずれも端末を識別するためのアドレスだが、利用する層が違う
- IPアドレスは、TCP/IPにおけるIP層(ネットワーク層)での識別で利用
 - 論理アドレスなどと呼ばれる
 - 各端末に割り振る固有のID番号で、ネットワーク上で一つ
 - 4オクテッドからなる数値
 - 例: 192.168.0.23
- MACアドレスは、イーサネット(TCP/IPのNW-IF層に相当)での識別で利用
 - ハードウェアアドレス、物理アドレスなどと呼ばれる
 - 各NIC(Ethernetカード)に固有のID番号で、世界に一つ
 - 48bit(24bitのベンダーID+24bitのシリアル番号)
 - 例: 00-0C-F1-AA-80-47

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

11

ネットワークデバイスの種類(※1.8)

- 層によって利用するネットワークデバイス(機器)(ネットワーク接続機器)が違う。
- 第1層(物理層):リピータ、ハブ
- 第2層(データリンク層):ブリッジ、スイッチ
- 第3層(ネットワーク層):ルータ

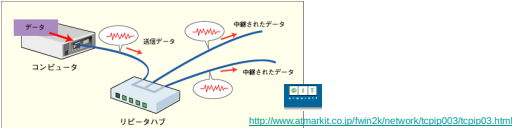
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

12

第1層ネットワークデバイス(※1.8)

- 第1層(物理層):リピータ、ハブ
 - 単に電気信号を中継するので、ノイズはノイズのまま送り出してしまふ。
 - リピータは、電気信号を増幅するケーブル延長装置で、10Base5,10Base2で使用。
 - ハブは、集線装置・中継装置で複数のLANケーブルを挿し込む。
 - リピータとして働くので、リピータハブとも呼ばれる。



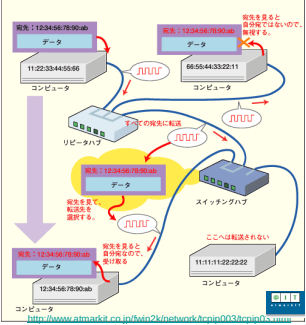
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

13

第2層ネットワークデバイス(1)(※1.8)

- 第2層(データリンク層):ブリッジ、スイッチ
 - 一度データをバッファに溜め込み解釈して中継する。よって、コリジョンにより破壊されたフレームを取り除くことができ、コリジョンドメインがここで分割される。
 - ブロードキャストドメインは分割できない



2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

14

第2層ネットワークデバイス(2)(※1.8)

- ブリッジは、フレームヘッダを解釈し、データリンク層の宛先であるMACアドレスにより、宛先と送信元を識別する。
 - 最低2口のポートを有し、片側から片側へ中継する。
 - ラーニングブリッジ(MACアドレス学習ブリッジ)が一般的になり、ある口(ポート)に接続しているノードのMACアドレスを覚え、不要なパケットは流さない。
- スイッチは、ハードウェアにより高速に動作する。一般的に2つの中継ではなくハブのように集線装置を兼ね、スイッチングハブと呼ばれる。

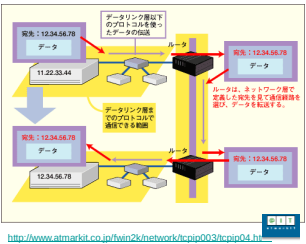
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

15

第3層ネットワークデバイス(※1.8)

- 第3層(ネットワーク層):ルータ
 - ネットワークとネットワークを接続する装置
 - パケットヘッダにある宛先アドレスを調べ、ルーティングテーブルを参照して、宛先までの経路を決定し、中継する。



2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

16

CSMA/CD方式(※3.5)

- 媒体アクセス制御方式の一つでイーサネットを採用
- Carrie Sense Multiple Access with Collision Detection; キャリア検知多重アクセス/衝突検出
- キャリアを確認しながら、複数の装置が同時に媒体にアクセス
- データの衝突が発生する可能性があり、これを検出したら再送信
 - 衝突=コリジョン、衝突を通知する信号=ジャム信号
- いわゆる「早い者勝ち」方式で、「たまたま失敗したら再度チャレンジ」!

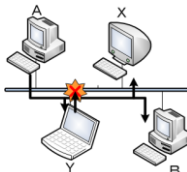
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

17

コリジョン(衝突)

- CSMA/CDでは送信されたパケットは、送信先だけでなく、他のノードにも届く
- もし複数のノードが同時に送信した場合、パケットは衝突(コリジョン)を起こし、データが破壊、再送
- コリジョンを起こしにくいネットワークポロジが望ましい



2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

18

ブロードキャストとネットワーク単位(1)(※5.1)

- ブロードキャスト
 - ネットワーク上の全てのノード(端末)宛てに送信する通信
 - 通常の通信は特定のノードに対してパケットを送信するが、ブロードキャストは不特定の全てのノードに対して一斉送信
- セグメントとコリジョンドメイン、ブロードキャストドメイン
 - セグメントは、ネットワークの論理的な構成単位で、ネットワークセグメントとも言い、スイッチングハブやルータなどが境界となる。
 - コリジョンドメインとは衝突が発生する可能性のある範囲のネットワークを言い、スイッチングハブやルータなどが境界となる。
 - ブロードキャストドメインとはブロードキャストが届く範囲のネットワークを言い、ルータなどが境界となる。
 - <http://www.atmarkit.co.jp/fwin2k/network/tcpip008/tcpip01.html>

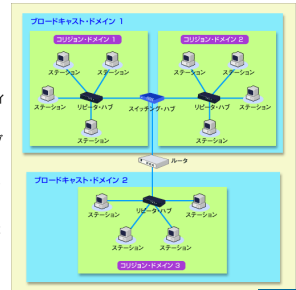
2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

19

コリジョンドメインとブロードキャストドメイン

- リピータ(L1)は複数のセグメントを接続し、単一のコリジョンドメインを形成
- ブリッジやスイッチング・ハブ(L2)は複数のコリジョンドメインを接続し、単一のブロードキャストドメインを形成するが、コリジョンドメインは別々のまま
 - データリンク層(L2)で動くブリッジやスイッチング・ハブは、正常なフレームのみを中継し、衝突などによる不完全なフレームは中継しないため、接続されたセグメントはそれぞれ別々のコリジョンドメインを形成することになる
 - イーサネットでは、ブロードキャストドメインが1つのネットワークセグメント
- ルータ(L3)は複数のネットワークを相互接続するが、それぞれのネットワークは別々のブロードキャストドメインとなる。
 - ルータはブロードキャストを中継しない


<http://www.atmarkit.co.jp/fwin2k/network/tcpip008/tcpip01.html>

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

20

注意事項

- フレームとパケット(※p50)
 - データの一固まりをパケットと呼ぶと紹介してきたが、フレームという言葉もある。
 - データの固まりの正式名称は「PDU」(プロトコル・データ・ユニット)
 - L2層のPDUをフレーム
 - L3層のPDUをパケット
- スイッチ(※5.2)
 - 一般的にスイッチと言うと、L2スイッチを指すことが多い。但しL3スイッチなどより高機能なスイッチもあるので少し注意。

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

21

ここまでのまとめ

- ネットワークの基礎(復習)
 - プロトコル、パケット、IPアドレス、ルーティングなど
- OSI参照モデルとTCP/IP、イーサネット
- ネットワークデバイス(機器)
- ブロードキャストドメイン・コリジョンドメイン
 - 教科書の序章,1章~3章,6章の多くは既にご存知のべき知識です。よく復習しておいてください。
 - 各章末に確認問題があります。
- まだまだ続く。。。

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

22

●小テスト: ネットワークデバイスとネットワークドメイン

- 教科書・資料・ノート・WEB参照可
 - 但し他人の力を使っては絶対駄目ですよ!
- 15分間(時間が短いのでご注意を)

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

23

○Visioの基本的な使い方

- Visioは「直感的な操作と効果的なビジュアル化で情報にインパクトと価値を持たせる」資料を作成するためのツール
 - <http://www.microsoft.com/japan/office/visio/prodinfo/default.msp>
 - 作図ソフトであり、インテリジェントCADではない
 - よって、論理的に不可能な設計図も作成可能
- 一般的な使い方
 - 立ち上げ、図面種類、図形(ステンシル)の利用と変形、その他
- ネットワーク図の描き方
 - 「ネットワーク: 詳細ネットワーク図」における図形の使い方。
 - 試してみよう
 - イーサネット、HUB、PCによる簡単な構成のネットワーク作図
- 保存と再開(開く)

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

24

Visioで書いてみよう

- イーサネットを配置してみよう
 - 伸ばしたり、細くしたりしてみよう
- 表示の倍率(ズーム)を変えてみよう
- PCを配置し、名前「A」を書いてみよう
 - 名前の位置を動かしてみよう
- PCをイーサネットに接続してみよう
- ハブやスイッチ、ルータを配置してみよう
- 描画ツールの直線で線を引いてみよう
- ハブとPCを直線で接続してみよう
- テキストツールや表題などで名前などを書いてみよう

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

25

Visio練習と提出

授業内では実施
できませんでしたが、
書けるようにし
ておきましょう。

- 提出のため、まず最初に名前を！
 - 右上に大きく、学籍番号と名前をテキストツールなどで！
 - 名前は手書きでは駄目です。
- ●P141図3-16と同じネットワーク図を描いてみよう
 - ハブは、10Baseでも100BaseでもスイッチでもOKとします
- 印刷して提出
 - 名前が手書きではなく入力されていることを確認

2008/04/21

第2回ネットワークプランニング08(荒井)

26